

全国からのバーコードデータを容器管理に接続

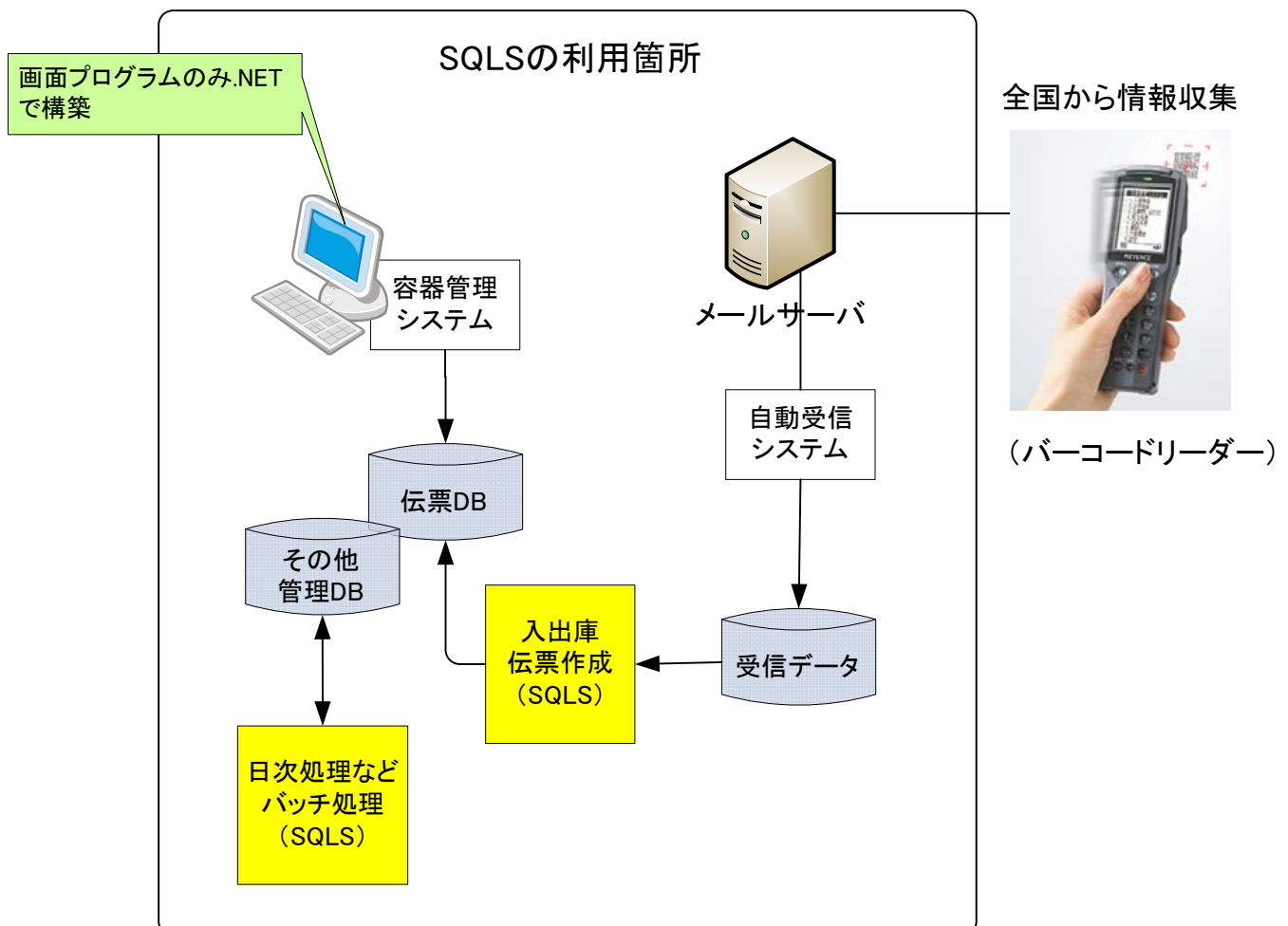
概要

食材用ガスボンベの入在庫データ(バーコード情報。全国15箇所)がメール経由で一箇所に収集されます。このバーコード情報を入庫伝票、出庫伝票形式に変換して、容器管理システムの伝票テーブルに接続します。これらの接続機能をSQSequencer(以下、SQLS)で実現していますので、この部分のプログラム製造が不要となりました。

評価

- 画面プログラム以外の処理は、すべてSQLSで構築できた。
- DB、画面設計後、ユーザと要件定義しながら処理を実装することができた。
- 仕様の認識違いは、直ぐに修正することが可能になった。
- プログラム製造工数を最小化できたので、大幅な製造コスト削減が実現できた。

全体図



記述例

004ステップを例として記載
ステップを複数並べる

<SQL情報>

<SQLNO>004</SQLNO>

<SQLタイトル>BR伝票に伝票NOを設定</SQLタイトル>

<!-- 伝票基本に追加するとき利用する伝票NOを設定する。 -->

<SQL種別>UPDATE</SQL種別>

<SQL>

UPDATE [BR伝票]

SET [伝票NO] = (select [伝票NO] from (

SELECT [CSV伝票番号],[区分]

, (select isnull(max([伝票NO]), 0) from [伝票基本]) + row_number() over (order by [CSV伝票番号])

[伝票NO]

FROM [BR伝票] D1

where [状態CD] = '01'

and [BR伝票NO]=(select min([BR伝票NO]) FROM [BR伝票] D2

where D1.[CSV伝票番号] = D2.[CSV伝票番号]

and D1.[区分] = D2.[区分]

and D2.[状態CD] = '01')

) [伝票NO付番]

where [BR伝票].[CSV伝票番号] = [伝票NO付番].[CSV伝票番号]

and [BR伝票].[区分] = [伝票NO付番].[区分]

,[更新日] = getdate()

where [状態CD] = '01'

</SQL>

<エラー時無視>N</エラー時無視>

<実行後コミット>N</実行後コミット>

<次SQLNO>005</次SQLNO>

</SQL情報>

条件文を書くことも可能。
例では、005ステップにジャンプ

.....中間省略.....

<SQL情報>

<SQLNO>012</SQLNO>

<SQLタイトル>BR伝票の状態CD更新</SQLタイトル>

<SQL種別>UPDATE</SQL種別>

<SQL>

UPDATE [BR伝票]

SET [状態CD] = \$\$NO\$\$

,[更新日] = getdate()

,[最終更新者ID] = 'System'

where [状態CD] = '01'

</SQL>

<エラー時無視>N</エラー時無視>

<実行後コミット>Y</実行後コミット>

<次SQLNO>99,0,正常に終了しました。</次SQLNO>

</SQL情報>

前SQLの実行結果により、
変数を置換できる

SQL実行後
①結果による条件分岐
②CSV出力指示
などが記述できる

動作環境

Windows2003 Server + .NET Framework2.0 + SQLS

Oracle10g

画面プログラムはC#で記述

風神レポート使用

お問い合わせ先 (SQLSの適用評価モニター募集中!!)

ON
NET
SYSTEMS

株式会社オンネット・システムズ

〒110-0016 東京都台東区台東1-14-7 Bビル11階6階

URL: www.onnet.ne.jp

TEL:03-5807-5081

FAX:03-5807-5082

E-MAIL: onnet@onnet.ne.jp